

研究・社会共創・イノベーション戦略

独自性を重視し、知的活動や想像力によって真理を探究する基礎科学研究、そして、地域社会と共に創した応用科学研究を遂行し、社会貢献へとつなげていきます。

TOPIC

地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）において取り組む以下①～④をデジタルバイオ・ライフサイエンスリサーチパーク発展の基盤とし、神戸大学全体をグローバル・イノベーション・キャンパスへと変革することを目指しています。

- ①世界に伍するバイオものづくり共創研究拠点
- ②DX・自動化研究環境の全学展開
- ③グローバル・イノベーション創出機能の強化
- ④地域産業のグローバル展開

卓越した研究力の強化

1. 世界トップクラスの卓越した研究成果の創出
傑出した研究成果を共創する知の集積
2. 地域から地球規模に至る社会課題の解決
異分野共創による新領域研究の創出
: SDGs、カーボンニュートラル
3. 異分野共創研究により未来社会に向けた新たな課題を解決
4. 学術研究からイノベーション成果の社会実装までの環境整備、組織的に共創推進
5. 国際的なプレゼンスを有す優秀な若手研究者を育成

傑出した研究成果の創出

海外との連携・共創を高い次元で推進し世界を牽引する開かれた異分野共創型卓越研究拠点となる大学を目指して

国際頭脳循環の活性による海外との共創の促進

国際的に優れた若手教員確保

P.54

各研究科における戦略的な研究の取組

P.59

特色ある研究系全学センターの取組

P.76

先端的異分野共創研究の推進

P.91

産官学連携の推進

P.104

社会実装を実現するための研究推進体制

アントレプレナーシップセンターと企業部

包括連携協定による組織的産学連携の推進

全学の研究組織体制について

知と人を創る 異分野共創 研究教育 グローバル拠点

国内外大学・研究機関
や産業界、地域社会との連携促進

兵庫県・神戸市

産業界

金融機関

他大学・研究機関

社会実装

●学術研究からイノベーション成果の社会実装までの環境整備、組織的に共創推進

クロアボ教員：120人(延べ)

科研費採択件数/研究者：3.6件(累計)

科研費獲得額/研究者：750万円(累計)

博士学生研究専念型フェローシップ：110人(平均)

若手教員比率：24%(第4期終了時)

研究シーズの”見える化”

若手研究者雇用促進

国内外の優秀な研究者獲得

近隣の世界有数の
科学インフラの活用

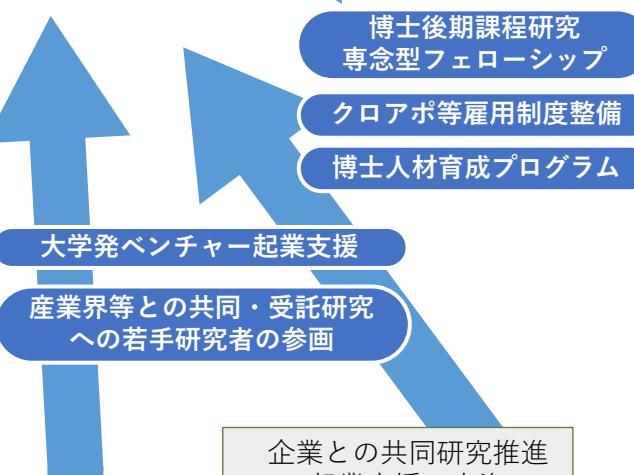
富岳

SPring-8

E-ディフェンス

学術研究

- 世界トップクラスの卓越した研究成果の創出
- 傑出した研究成果を共創する知の集積
- 国際的なプレゼンスを有す優秀な若手研究者を育成



学内の研究支援・推進
URAによる研究支援
異分野共創研究支援

学術研究推進機構

学術研究推進室

先端的異分野共創
研究推進室

異分野共創研究
企画・創出委員会

学内共同基盤の整備

学内共同管理・支援組織

多様な研究領域

人文・人間科学系研究科

社会科学系研究科

自然科学系研究科

生命・医学系研究科

学内共同教育研究推進組織

異分野共創研究領域

- 地域から地球規模に至る社会課題の解決
- 異分野共創による新領域研究の創出

: SDGs、カーボンニュートラル

企業との共同研究推進
起業支援・出資
知財戦略推進

産官学連携本部

KUI社

神戸大学ファンド

Top10%論文：1,200報(累計)

国際共著論文：5,000報(累計)

Web of Science収録論文：14,000報(累計)

SDGs関連プログラム：

16件(第4期終了時)

共同・受託研究数：1,700件(第4期終了時)

共同・受託研究費：60億円(第4期終了時)

大学発ベンチャー新規起業：30社(累計)

企業共著論文数：550報(累計)

外部資金：160億円(第4期終了時)

傑出した研究成果の創出

海外との連携・共創を高い次元で推進し世界を牽引する開かれた 異分野共創型卓越研究拠点となる大学を目指して



目的

- 高水準の国際共同研究の促進
- 海外の優秀な研究者・学生の集結

目標

- 国際共著論文の増加
- 世界大学ランキングの向上

方策

国際相互連携システムの創成

国際頭脳循環の活性

- 博士課程学生の海外派遣
- 若手教員長期海外派遣
- 外国人研究者受入
- 海外拠点を活用した学術交流拡充

国際共同研究の活性

- 強みのある研究領域の国際研究ネットワーク強化
- 個々人の国際共同研究の活性化
- 外部資金の獲得による国際共同研究の活性化

国際的認知度向上

- 研究成果の国際情報発信の強化
- 国際会議の開催

国際相互連携システムの創成に向けた具体例

URAが連携する国際相互交流・海外共同研究モデルの創出
(国内・海外のURA同士による研究資金プログラムの情報共有、意見交換および獲得に向けた支援)

海外の研究資金プログラムへの応募支援

国際研究資金に関する情報収集・ノウハウの充実

共同研究立ち上げ

学内助成ハンドリングによる国際共同研究立上げ支援

国際共同プロジェクトのコーディネーション

探索・ネットワーキング

研究者マッチング

国際的な研究交流機会の創出（シンポジウム開催等）

国際共同研究のサイクル

共同研究遂行

情報発信

国際プレスリリース

海外のリサーチマネージャー
との関係強化

国際頭脳循環の活性による海外との共創の促進



博士課程学生の海外派遣

【概要】

博士研究者人材育成強化の一環として、博士課程在籍中の学生に研究者としての資質向上の機会を与えるため、海外留学費用を支援し、留学先で博士論文に関連する研究を行うとともに、英語力・異分野理解向上、留学先での人的交流の深化を図る。



若手研究者への支援

【概要】

若手研究者に対する各種支援策を実施

若手教員長期海外派遣事業

若手教員の海外派遣を推進し、次世代の中核を担う国際的に活躍できる若手研究者の育成・本学の国際交流の活性化を図る

各学系から計6名を派遣予定

前之園記念若手優秀論文賞

英文雑誌に掲載された優れた論文の筆頭著者となった若手研究者に対して、敬愛まちづくり財団の支援を受け賞金を授与

海外拠点を活用した学術交流拡充

【概要】

海外拠点において、国際シンポジウム等を開催し、本学の国際的プレゼンスの向上を図るとともに、海外の研究者と学術的交流を深め、共同研究ネットワークを拡大し、国際共同研究につながる協力関係を構築する。



国際共同研究の強化

【概要】

国際共同研究を活性化し、国際共著論文に対する学内の意識改革を図るため、次の3型から成る国際共同研究強化事業を実施。

A型	国際共著論文インセンティブ型	国際共著論文実績に基づき各部局に予算を配分
B型	国際共同研究育成型	戦略的に経費を投じて国際共同研究を強化し、優れた <u>国際共同研究プロジェクトの創出・発展</u> を目指す学内公募事業
C型	国際共同研究創出型	<u>外国人研究員を雇用または招へい</u> し研究に参画させることで、国際共同研究プロジェクトの創出を目指す学内公募事業

戦略的な国際学術交流協定の活用・促進による 強みのある研究領域の国際研究ネットワークの構築



締結協定の戦略的活用

既存協定の検証

- ① 個から発展した協定を大学での組織でさらに連携をとることで有効に活用
- ② トップ会談等で締結した合意のみ行っている協定の実質化、将来的に交流が見込めない協定の見直し
- ③ 重点協定校設置の検討

新規締結時：世界ランキング、締結大学の規模、教育研究レベルや組織形態等、総合的に精査
更新時：共同研究の推進や研究者・学生の受け入れ・派遣増加の可能性の観点等から精査

国際共同研究の推進、教員・学生交流の活性化、協定校とのネットワークの有効利用

交流実績、共著論文数の把握 → さらなる国際共同研究の推進を図るための調査・分析

海外協定校数
392校 (2025年)

ヨーロッパ：150校
アフリカ：6校

アジア：179校
オセアニア：12校
中東：7校

北米：30校
中南米：8校

下線は海外協定校以外

強みのある領域のネットワーク

社会システムイノベーション研究

- ・復旦大学（中国）
- ・南開大学（中国）
- ・貿易大学（ベトナム）
- ・清华大学（中国）
- ・北京大学（中国）
- ・南カリフォルニア大学（アメリカ）

学際日本研究

- ・オックスフォード大学（イギリス）
- ・ヴェネツィア大学（イタリア）
- ・ハンブルク大学（ドイツ）
- ・トリアーナ大学（ドイツ）
- ・エトヴェシュ・ローランド大学（ハンガリー）
- ・ヤゲウォ大学（ポーランド）
- ・パリ第10(ナンテール)大学（フランス）
- ・復旦大学（中国）
- ・北京大学（中国）
- ・北京外国语大学（中国）
- ・韓国海洋大학교（韓国）
- ・中国文化大学（台湾）

新興・再興感染症研究

- ・インドネシア大学（インドネシア）
- ・ガジャマダ大学（インドネシア）
- ・アイルランガ大学（インドネシア）
- ・マヒドン大学（タイ）
- ・チェンマイ大学（タイ）

数理・データサイエンス研究

- ・グルノーブル・アルプ大学（フランス）
- ・南洋理工大学（シンガポール）
- ・香港理工大学（中国）
- ・リュブリヤナ大学（スロベニア）
- ・ニューブランズウイック大学（カナダ）

バイオプロダクション研究

- ・インドネシア科学院（インドネシア）
- ・清华大学（中国）
- ・上海交通大学（中国）
- ・中国科学院大学（中国）
- ・国立成功大学（台湾）
- ・シンガポール国立大学（シンガポール）
- ・テキサス大学オースティン校（アメリカ）
- ・イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校（アメリカ）
- ・ケープタウン大学（南アフリカ）

メディカルトランスフォーメーション研究

- ・ワシントン大学（アメリカ）
- ・オスロ大学（ノルウェー）
- ・トロント大学（カナダ）
- ・アイルランガ大学（インドネシア）

先端膜研究

- ・シドニー工科大学（オーストラリア）
- ・ビクトリア大学（オーストラリア）
- ・浙江大学（中国）
- ・香港科技大学（中国）
- ・南京工业大学（中国）
- ・清华大学（中国）
- ・天津工业大学（中国）
- ・漢陽大学校（韓国）
- ・中原大学（台湾）
- ・国立台湾科技大学（台湾）
- ・マレーシア工科大学（マレーシア）
- ・バンズ工科大学（インドネシア）
- ・Institut Européen des Membranes（フランス）
- ・アーカンソーユニバーシティ（アメリカ）

未来都市研究

- ・カリフォルニア大学サンディエゴ校（アメリカ）
- ・カリフォルニア大学バークレー校（アメリカ）
- ・カリフォルニア大学PEER（アメリカ）
- ・ガジャマダ大学（インドネシア）
- ・バンズ工科大学（インドネシア）
- ・ノルウェー地盤工学研究所（ノルウェー）
- ・SKB（スウェーデン）

スパコンを用いた先端研究

- ・南カリフォルニア大学（アメリカ）
- ・カリフォルニア大学サンディエゴ校（アメリカ）
- ・オスロ大学（ノルウェー）
- ・ライデン大学（オランダ）
- ・中山大学（中国）

海洋底探査研究

- ・コート・ダジュール大学（フランス）
- ・プリンストン大学（アメリカ）
- ・南方科技大学（中国）
- ・アバディーン大学（イギリス）

国際的に優れた若手教員確保の取組み

～高等学術研究院～



- 学長の主導の下に本学の特色及び強みを活かして、国際的に卓越した学術研究を推進するとともに、本学の研究力の一層の向上に資する
- 本学の学術研究の推進を先導する国際的に卓越した研究者及び国際的に優れた若手教員を「高等学術研究院教員」として選定し、学長が決定
- 研究院教員は国際的に優れた若手研究者を対象とした「卓越准教授・教授」、研究キャリアのスタートを支援する「テニュアトラック教員」、本学の博士後期課程修了者を対象とした「若手夢実現支援制度～Bridging the gap～」、世界トップクラスの優れた研究業績を有する「特別招聘教授」「特別栄誉教授」で構成

国際的に 優れた 若手研究者	卓越教授・ 准教授	本学の学術研究の推進に資する国際的に優れた若手の助教・講師・准教授を准教授または教授に昇任させる			
	令和7年度採択者（5名）	<ul style="list-style-type: none">■ 教育・研究に専念させ（部局運営業務は原則免除）、一層の研究成果創出を促す■ 今後も引き続き本学において研究を行うインセンティブとする■ 第4期中期計画KPI等の向上			
	三木 拓司 准教授→卓越教授	坂東 弘教 助教→卓越准教授	田中 謙也 講師→卓越准教授	京極 博久 助教→卓越准教授	衣笠 太朗 講師→卓越准教授
	科学技術イノベーション研究科 准教授→卓越教授	医学研究科 助教→卓越准教授	先端バイオ工学研究科センター 講師→卓越准教授	農学研究科 助教→卓越准教授	国際文化学研究科 講師→卓越准教授
	累計採択者数 19名（うち、卓越教授 6名、卓越准教授 13名）	デジタルバイオ＆ライフサイエンスリサーチパーク構想の5拠点において、各拠点の取組に資する優秀な若手が恵まれた環境で研究者としてキャリアをスタート	本学の博士後期課程修了後の優秀な若手研究者（ポスドク）を対象とし、学内公募により毎年度4名程度を選考、特命助教（養成枠）として採用・育成する制度	国際的に卓越した研究業績を有する国内外の研究者でクロスアポイントメントにより教授または特命教授として本学に受け入れている教授	本学を教授として退職した者または本学の学士課程の卒業生若しくは大学院修了生であって国際的に顕著に卓越した業績等を有する者のうち、ノーベル賞等の著名な賞の受賞者
国際的に 卓越した 研究者	特別招聘教授	本学を教授として退職した者または本学の学士課程の卒業生若しくは大学院修了生であって国際的に顕著に卓越した業績等を有する者のうち、ノーベル賞等の著名な賞の受賞者			
	特別栄誉教授	58			

各研究科の戦略的な研究の取組

人文学異分野共創プラットフォームの構築 ～人文学研究科～



社会的インパクト

海外協定校との共同教育
研究プログラムの開発

異分野共創型の大学の地域連携
の全国的なモデルを形成

文理横断的・異分野共創的な
「知」を備えた人材の育成

プラットフォーム

神戸オックスフォード
日本学プログラム
(KOJSP)

- ◎留学生のユニット型受入プログラムの全学的展開・国際共修の推進
- ◎オックスフォード大学の教員との学術交流
- ◎企業とのプログラム共同開発

日本語日本文化
教育プログラム

- ◎アカデミックライティング
- ◎日本語教育インターーンシップ
- ◎国立国語研究所等と国際会議、学会等の共同開催
- ◎古典籍データベース化

文化交渉学研究
プロジェクト

- ◎文化交渉学の推進
- ◎国際的研究機関との共同研究・若手研究者育成（北京大、復旦大、北京外大、パリ・ナンテール大他）
- ◎INTERFACEing
- ◎海港都市研究

地域連携センター

- ◎まちづくり支援
- ◎歴史資料の保全・活用
- ◎人材育成
- ◎情報共有や交流促進

倫理創成
プロジェクト

- ◎科学技術倫理
- ◎生命倫理
- ◎防災教育
- ◎人工知能の倫理
- ◎東アジアのジェンダー研究

神戸霧囲気学研究所
(KOIAS)

- ◎新領域「霧囲気学」の創設、推進
- ◎欧州・アジア・米州の大学・研究機関との連携による国際拠点形成

歴史文化資料保存の大学・共同利用機関ネットワーク事業（令和4～9年度）

神戸大・東北大・人間文化研究機構の協定による歴史文化資料保存のための共同研究事業の展開

人文学推進インスティテュート

工学部との共同教育プログラム

ステークホルダー

- 国内外の大学
 - * オックスフォード大学
 - * 北京外国语大学
 - * 北京大学・復旦大学
 - * パリ・ナンテール大学
 - * ローマ第2大学
 - * トリーア大学
 - * 国立台湾大学 他

エンゲージメント

- 学内組織
 - * 未来世紀都市学研究
 - * 都市安全研究センター
 - * 他部局との教育研究プログラム（人社系学部・工学研究科・附属図書館）

- 自治体
 - * 兵庫県・神戸市・豊岡市・丹波篠山市・三木市 他
- メディア
 - * 神戸新聞・サンテレビ
- 企業
 - * 島津製作所

- 人間文化研究機構
 - <協定機関>
 - * 国立歴史民俗博物館
 - * 国立国語研究所
 - * 国文学研究資料館
 - * 国立民族学博物館

〈文化研究〉の新領域を切り拓く研究体制 ～国際文化学研究科～

基幹研究

■人文系・社会系の諸分野の総合をつうじて〈文化研究〉の深化へ

地域文化系 文学、歴史学、社会学、芸術研究等の連携をつうじて日本・アジアから欧米まで世界各地の地域文化をトータルに解明

異文化コミュニケーション系 人類学、政治学、比較文化研究など複数の文化間の接触・対立・交錯のダイナミクスを多角的に探究

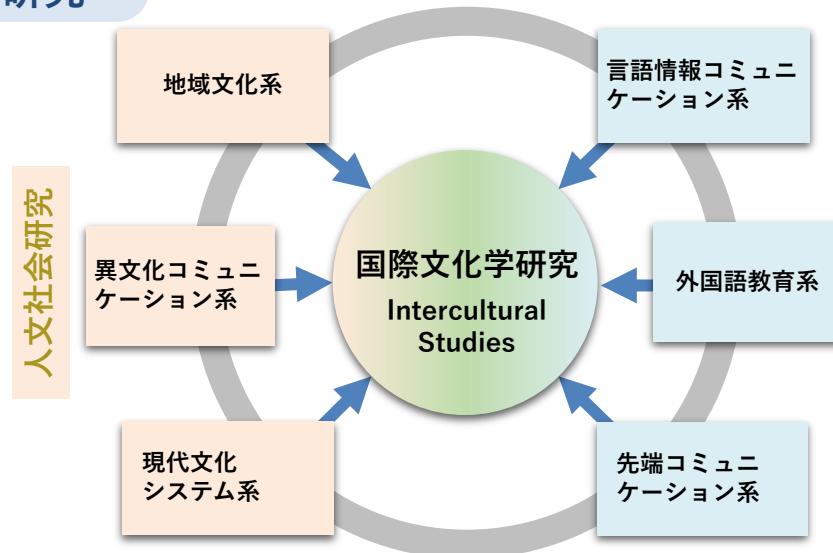
現代文化システム系 社会学から思想史、美学・芸術文化研究まで現代文化のシステム全体を理論と実践の両面からトータルに解説

■先進的コミュニケーション研究をつうじて〈文化研究〉の革新へ

言語情報コミュニケーション系 言語学、心理学、情報科学を軸にコミュニケーション行為とその文化的な背景について多角的に解明

外国語教育系 言語学、心理学、教育学から文学テクスト分析まで多角的な視点から外国語教育に関する理論と実践を総合的に研究

先端コミュニケーション系 国際電気通信基礎技術研究所（ATR）との連携



国際文化学研究推進インスティテュート

国際文化学に関する新領域・分野横断的研究を推進

学際的/国際的共同研究の開発と促進、若手研究者への研究支援により時代の求める高次元の研究成果をグローバルに発信

《3つのセンター》

移住・移民研究センター

移住・移民をテーマとする学際的/国際的共同研究プロジェクト・シンポジウム等を推進

地域連携センター

自治体、NGO等との連携事業の企画

アフリカン・コンヴィヴィアリティ・センター

アフリカの研究者・学生との共同研究、交流など頭脳循環を促進するための事業を推進。

若手研究者の支援・研究力強化

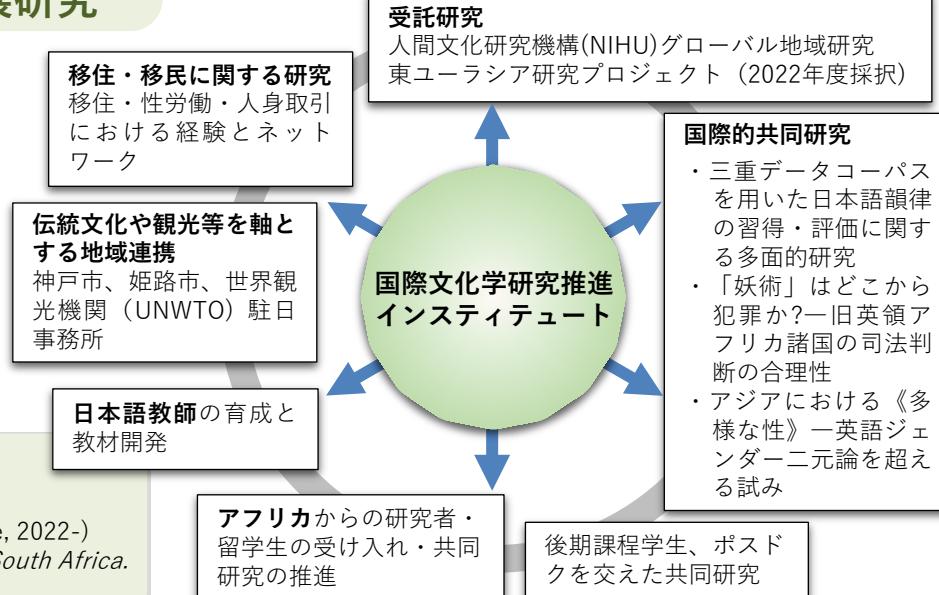
- ・次世代セミナー
- ・科研費申請書説明会
- ・修士論文の保管・閲覧用開示

《主な活動》

最近の成果発信

- ・Global Perspectives on Migration and Multiculturalisation. 5 vols. (Routledge, 2022-)
- ・Bouncing Back?: Critical Reflections on the Resilience Concept in Japan and South Africa. (Langaa, 2022)

発展研究



多世代・多様な人々の善き生（Well-being）の実現

人間の発達とそれを支える環境を対象とした文理融合・学際的研究

都市と里山研究

ESD創成研究

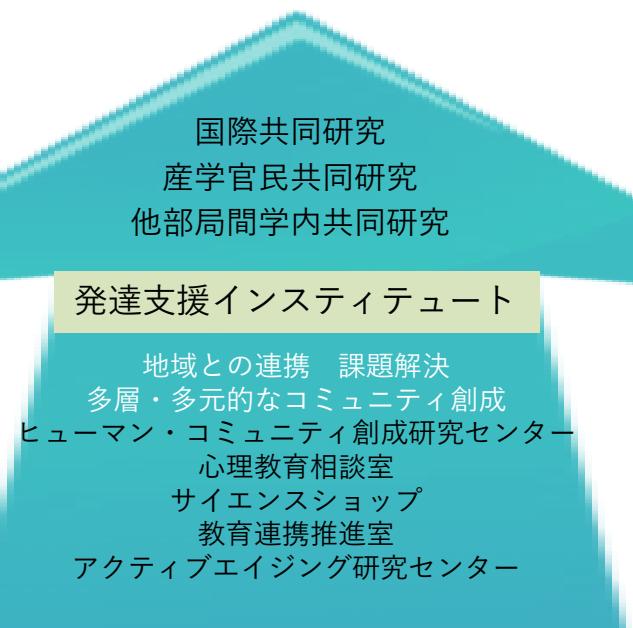
理系人材育成研究

スキル研究

共生社会開発研究



- ・心身の発達と健康
- ・人間の感性と発達
- ・身体活動と人間行動の発達
- ・人間形成と発達



- ・人間社会の基盤となる自然環境・
高度化した情報環境
- ・生活環境を豊かにする技術・資源
- ・人間発達を支援する社会環境



人間発達専攻

個人の創造的発達の要因の解明
(心理系, 教育系, 表現系, 行動系)

人間環境学専攻

人間の発達を促進し, 支援する環境要因の解明
(自然科学, 数理情報科学, 生活科学, 社会科学)

人間発達環境学研究科

複雑な諸課題を抱く現代社会における、人のよりよい生（Well-being）の実現を目指した知の構築をはじめとする、人が潜在的に持つ能力の開花について、またそのために必要な環境について、原理的、実践的及び国際的に追究する研究

国際性・先端性に富んだ研究の展開 ～法学研究科～



法学研究科の研究目的

法学・政治学の基礎的研究並びに応用的研究を行うと共に、国際性・先端性に富んだ研究を展開する

2030年に向けた目標

若手研究者を含む個々の研究者による多様な研究活動を推進すると共に、複数の研究者による国際共同研究・異分野共創型研究の展開を可能とする人的・物的基盤を確保することで、地域から地球規模に至る広範囲な社会課題の法的・政治的解決につながる研究成果を持続的に創出する

具体的な戦略

国際共同研究・異分野共創型研究の基盤構築

- オンラインも活用しての、国際的に活躍する研究者の招聘と共同研究の実施
 - 2025年度の受入研究員数：9名（内、外国籍2名）
- シンポジウム・セミナー等を通じた国際研究ネットワークの拡大
- 社会システムイノベーションセンターなどとの異分野共創型のプロジェクトの推進
 - プロジェクトの例：デジタル化社会の比較法制度研究プロジェクト

研究活動を充実させる環境づくり

- バイアウト制度（研究の遂行に伴う教育業務の代替実施）の積極的な利用による授業負担の軽減と研究時間の拡大
- 国際的に評価の高いジャーナル（Web of Scienceジャーナル）に外国語論文を刊行した研究者に対する研究費の追加付与
 - 2024年度のインセンティブ制度申請数：5件
- 論文や書籍の英文校正費用の補助

競争資金獲得のためのサポート体制の充実

- 競争的資金（科研費や外部資金）を獲得するためのFD・ランチョンセミナーの定期的な開催
 - 2025年度の科研費の新規採択件数：11件（継続件数は38件）
 - 2024年度に採択された大型科研（基盤A）の例：
「国内公法の越境性」の一般理論の構築：解釈論・ツールボックス立法論・理念的立法論
- 科研費採択者・大型外部資金獲得者へのインセンティブ（研究費）の支給

若手研究者のための支援

- 若手教員の在外研究による先端研究吸収・ネットワーキング推進
- 博士課程の学生に対する研究支援、及び教員との共著を促進
 - リサーチアシスタントとして雇用、先端研究に携わる機会を提供。同時に、研究プロジェクトのマネージメントを指導
 - 神戸大学博士学生フェローシップ制度やSPRING事業の下での研究資金確保を促進（2025年度は計6名採択）
- 日本学術振興会特別研究員（DC1、DC2）への応募支援と特別研究員（PD）の受入
 - 助成金情報の提供、申請書の準備のサポート

世界水準を見据えた国内トップレベルの研究 ～経済学研究科～



経済学研究科が掲げる「Research Vision 2030」

＜ ビジョンを支える三本柱 ＞

異分野共創型研究を加速

QS世界大学ランキング（分野別）
国内最上位・世界トップ100を目指す

地域連携型研究を加速

理工系分野との共創

- ・データサイエンス
- ・計算科学
- ・ネットワーク科学

生命系分野との共創

- ・地域医療学
- ・こころの生涯健康学

人文系分野との共創

- ・ウェルビーイング研究
- ・学校教育研究
- ・ジェンダー規範研究

社会科学系分野との共創

- ・法学
- ・政治学
- ・経営学
- ・会計学

QS World University Ranking by Subject

(Economics and Econometrics) をガイドラインとして
研究力向上とレビュー・マネジメント強化

2030：国内上位から世界トップ100へ

独自の研究奨励

①卓越した研究業績
(TOP 5誌への掲載、SSCI論文 (WoS論文) 年10本以上、
著作の日経経済図書文化賞・エコノミスト受賞)
⇒1年間のリーブ

②優れた研究活動 (TOP50誌への掲載、著作の高い評価)
⇒個人研究費の追加配分・部局独自のコースバイアウト

2025：世界367位 国内10位

Academic Reputations	Citations per Paper	H-index Citations	Employer Reputations
国内8位	国内6位	国内5位	国内8位
世界172=位	世界201+位	世界201+位	世界201+位

神戸市との連携

- ・中長期的な政策課題に対する
助言・共同研究・人材育成
- ・大規模マンション建設の影響
と社会課題
- ・救急需要対策としての救急搬送の効率化

兵庫県等との連携

- ・加点式健康診断研究
- ・持続可能な農業・農村の発展
- ・レジリエントな都市経済

関西との共創

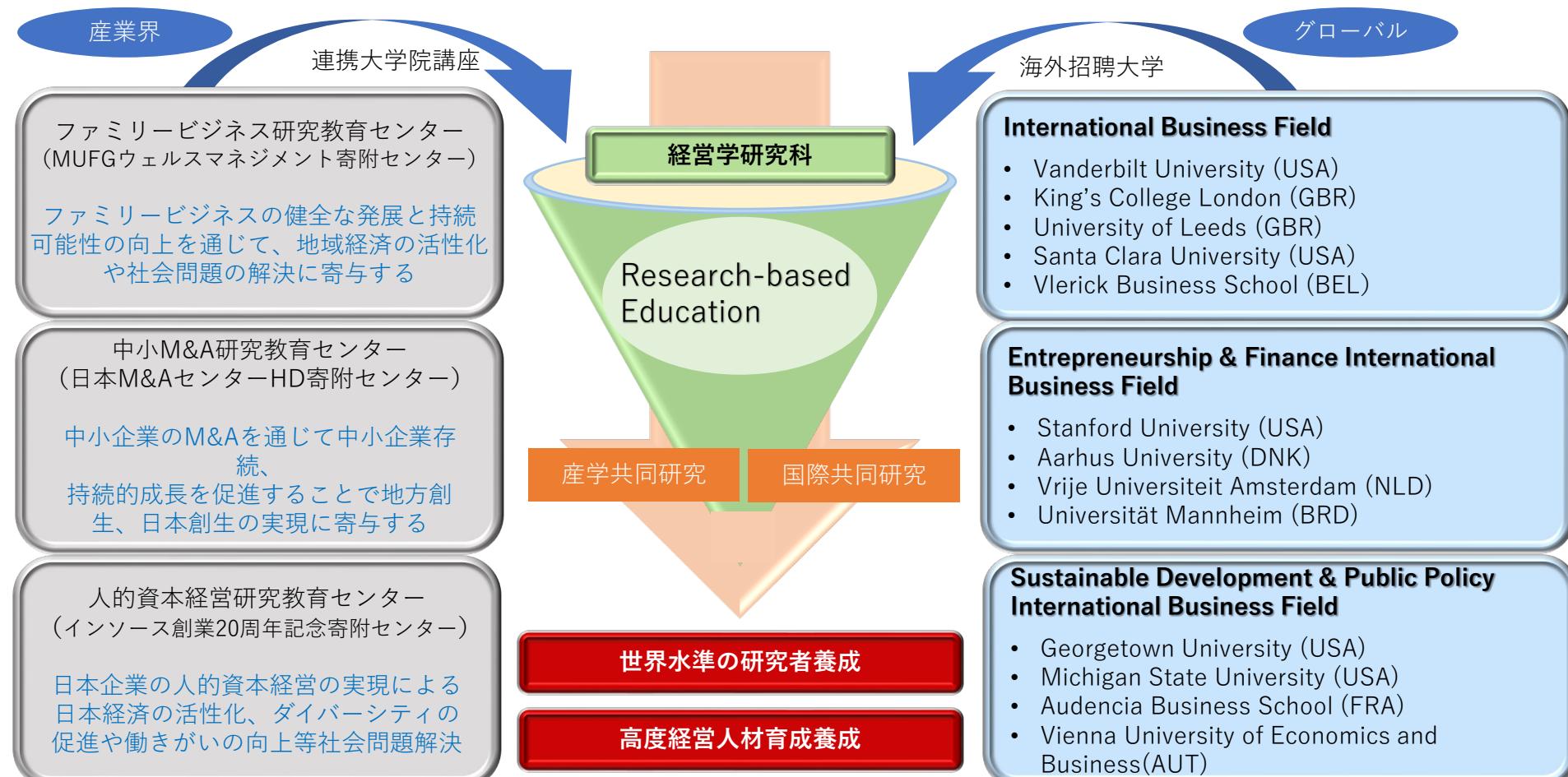
- ・大阪・関西万博を契機とした
関西経済の活性化
- ・ポスト万博を見据えた観光
戦略
- ・中国経済の関西経済への影響
と展望

オープンアカデミズムに基づく研究戦略

～経営学研究科～



経営学研究科は、経営学のトップスクールとして、「オープンアカデミズム」を研究の理念とし、「研究に基づく教育」(Research-based Education)を展開しています。産業界からの寄附による研究教育センターおよび連携大学院講座を設置して産学共同研究を展開して社会実装を行い、KIMAP in Managementの招聘教授らを中心に国際共同研究を展開し、世界的なレベルでアカデミズムと産業界の課題解決に取り組み、成果を社会に発信しています。



先端卓越研究の臨場感にひたる

～理学研究科～



理学、それは探求と創造の世界

国際共同研究

CERNなど海外の研究機関で国際共同研究に取り組んでおり研究成果を生み出しています。



国内研究連携

東京大学宇宙線研究所、高輝度光科学研究中心-SPRING-8、分子科学研究所、海洋研究開発機構などとのクロスアポイントメントや共同研究などの研究連携を推進しています。

数学
科学を支える体系

解析数理
構造数理
応用数理

物理学
自然の根本原理

理論物理学
粒子物理学
物性物理学

惑星学
この星はなぜ
地球なのか

基礎惑星学
新領域惑星学

理学部
理学研究科

すべてを
解明する

化学

物質の現象と原理

物理化学
無機化学
有機化学

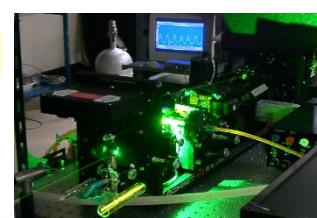
生物学

生命とは何か

生体分子機構
生命情報伝達
生物多様性

連携講座群

理研計算科学研究中心、理研生命機能科学研究中心、高輝度光科学研究中心、住友化学、海洋研究開発機構、気象庁気象研究所、国立天文台と連携し設置しています。



学内センター群

関連する、数理・データサイエンスセンター、分子フォトサイエンス研究中心、バイオシグナル総合研究中心、内海域環境教育研究中心、海洋底探査センター、都市安全研究センター、研究基盤センターと研究連携を推進しています。

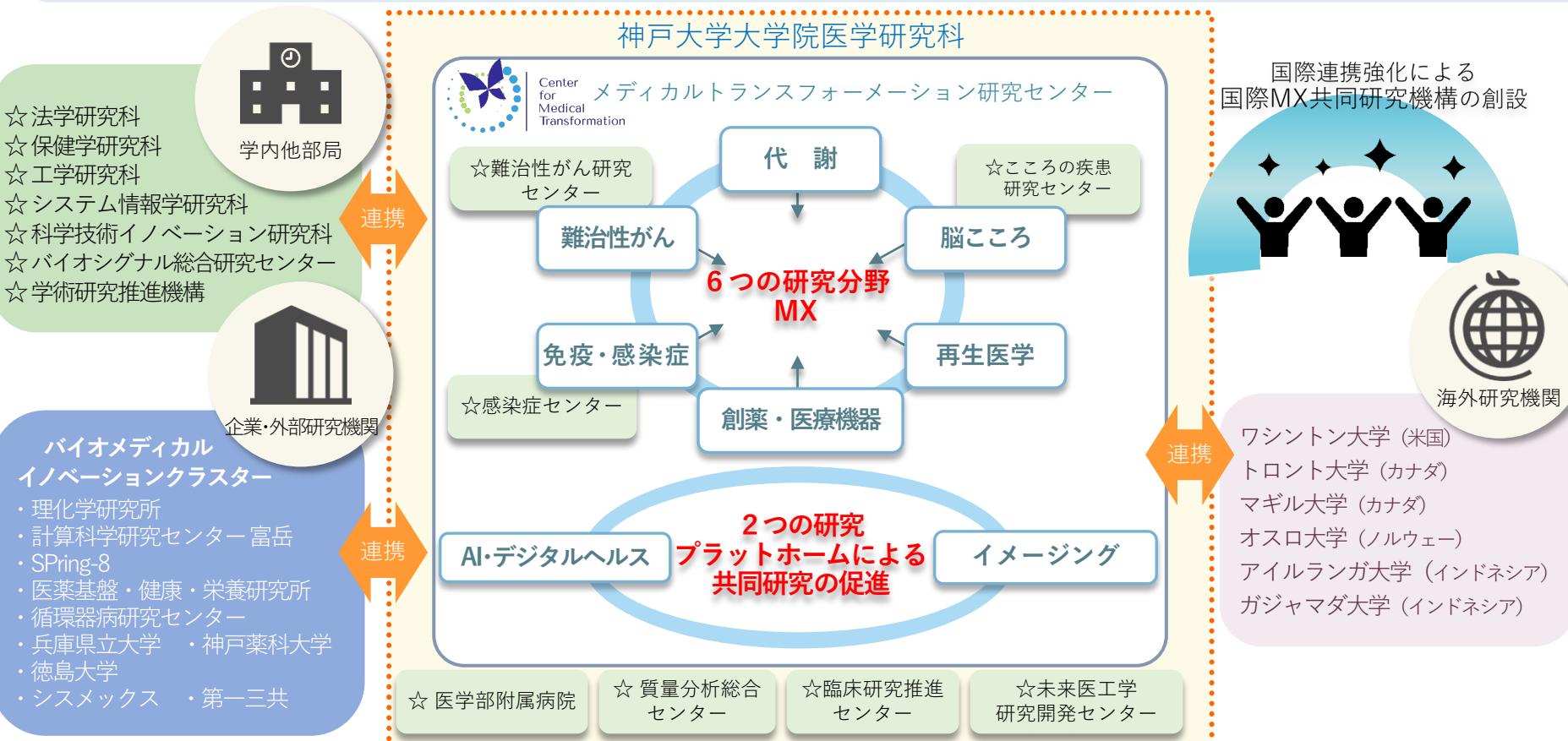
メディカルトランスフォーメーション研究センター(CMX)の創設 ～医学研究科※～



※) 2026年4月1日 医学系研究科へ改組予定

目的

- 伝統あるシグナル伝達医学研究を深化させニューノーマルDX時代のトランスフォーメーション研究を展開
- 学内他部局・外部研究機関・企業との共同研究により組織的に研究成果(シーズ)を創薬研究・臨床診断法・医用機器開発などのメディカルトランスフォーメーションの創出へつなげる
- ワシントン大学,オスロ大学等との国際連携による国際MX共同研究機構を創設



目標

病因・病態の解明

超早期診断法・
革新的治療薬の開発

疾患予防法の確立

新領域の創出

国際性に富む卓越した
若手人材の育成・輩出

→ 安心・安全でQOLの高い社会の実現に貢献する

健康寿命延伸を見据えた異分野連携による未来志向型保健学研究

～保健学研究科※～



※) 2026年4月1日 医学系研究科へ改組予定

心身の健康や疾病・障害を身体的、精神的、社会的、倫理的側面から把握する総合保健医療 total health care の実践を掲げ、独創性と創造性を兼ね備えた高度医療専門職者や教育研究分野での指導的人材を養成する。そのために、臨床経験とリサーチマインドの醸成、さらに異分野連携を図り、特に「認知症予防」「感染症対策」「医工連携」に秀でた次世代保健医療を牽引するグローバル人材育成に注力し、これをもって教育、研究の社会実装の実現による社会貢献を目指す。

国内協力拠点

- ・兵庫県、神戸市、丹波市、三田市などの地方自治体
- ・大阪大学
- ・兵庫医科大学
- ・神戸常盤大学
- ・国立感染症研究所
- ・国立長寿医療研究センター
- ・情報通信機構
- ・医薬基盤・健康・栄養研究所
- ・(株)神戸新聞社
- ・オムロンヘルスケア(株)
- ・(株)日立製作所
- ・西日本電信電話(株)
- ・バンドー化学(株)
- ・パラマウントベッド(株)
- ・(株)Moffなど

認知症予防

認知症予防推進センターの全学センター化構想を実現し、認知症予防事業コグニケア拡充を基盤にした持続的な取り組みにより地方創生に貢献する。

感染症対策

アジア健康科学フロンティアセンターと協働した新興感染症対策、新規薬剤・ワクチン開発、薬剤耐性菌等の国際的疫学研究を継続して展開する。

医工連携

学内外組織と連携した人材の育成と社会実装を展開し、医療デバイス開発に加えて最先端AI技術を活用した新たな予防医学体系を構築する。

海外協力拠点

- ・インドネシア大学
- ・ガジャマダ大学
- ・マヒドン大学
- ・チェンマイ大学
- ・アイルランガ大学
- ・チュラロンコン大学
- ・カンボジア国立衛生研究所
- ・ソロモン諸島National Health Training and Research Institute
- ・グラーツ大学
- ・FHヨアネウム応用科学大学
- ・カロリンスカ研究所など

地域保健学から国際保健学を包括したグローバルな展開、社会貢献へ

保健学研究科
地域連携センター

認知症
予防推進センター

アジア健康科学
フロンティア
センター

未来世紀都市学研究アライアンス
自然科学保健部門
Well-being先端研究センター

看護学領域 / 病態解析学領域 / リハビリテーション科学領域 / パブリックヘルス領域

予防

- ①脳認知機能の基礎研究・栄養学・代謝性疾患に基づく認知症予防
- ②新型コロナウィルス・マラリアに対するワクチン開発
- ③心不全患者の急性増悪予防と支援体制の構築
- ④医療介護関連肺炎の発症予防に向けたプログラム開発
- ⑤睡眠評価を活用した認知症予防とフレイル予防の対策
- ⑥栄養学・食育研究に基づく予防的な生活習慣病対策など

診断

- ①リウマチ性疾患・代謝性疾患の新規バイオマーカー開発
- ②糖尿病・関節リウマチの疾患感受性遺伝子探索と新規治療開発
- ③転写因子の基礎研究と悪性腫瘍発生の機構解明
- ④アルツハイマー型認知症患者の発症早期診断
- ⑤新興感染症診断法の基礎的研究
- ⑥骨軟部腫瘍の病態解明
- ⑦組織修復に対する物理的刺激の効果検証

ケア

- ①VRを活用した認知症看護研修プログラムの開発（日本・台湾における効果検証）
- ②家族ケア・ケアリングと家族支援モデルの構築
- ③総合周産期母子医療センター看護の可視化と質保証（附属病院看護部との共同）
- ④AIを活用した看護管理の開発
- ⑤工学技術を活用した家族介護者支援の開発など

リハビリテーション

- ①リハビリテーション介入効果の検証・運動器・脳血管・心大血管・呼吸器疾患者の運動機能・高齢者の運動・認知機能・精神障害者の精神・運動機能・がん患者の運動・精神機能
- ②生活支援と機器開発・高齢者・障害者の生活・介護支援・神経筋疾患患者・高次脳機能障害の生活支援機器開発・認知症患者家族の支援プログラムなど

ものづくり、ことづくり、そしてずっと続くしあわせづくり

～工学研究科～



5つの専攻と研究センターを縦串・横串とした連携により、**学務と実務を融合した科学技術の推進・自主研究の尊重と社会実装の実現・产学融合によるイノベーション創出**を志向します。「物（もの）づくり」がきっかけとなって生み出される「事（こと）づくり」を重視し、その先にある「誰もが幸福な未来社会の実現」を目指します。

工学研究科各専攻



建築学

人と地球に関わる課題に応え、安全で豊かな生活空間をつくる



市民工学

世界市民の安全・安心と幸福に貢献する



電気電子工学

エレクトロニクスの技術革新により持続可能で豊かな社会を実現する



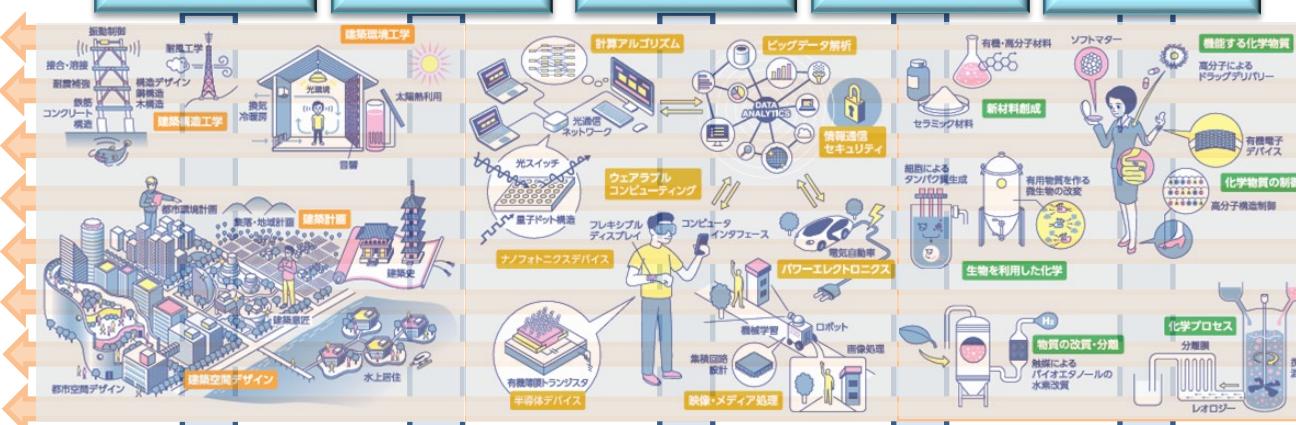
機械工学

持続可能な社会を支えるために機械のブレイクスルーに挑戦する



応用化学

応用化学により人の生活を支え、未来を拓く



工学研究科附属研究センター

微細加工プロセス技術センター

界面科学研究センター

複雑熱流体工学研究センター

先端スマート物質・材料研究センター

レジリエント構造研究センター

医療デバイス創製医工学研究センター

減災デザインセンター

グラフィクスリテラシー教育研究センター

神戸大学研究センター

都市安全研究センター

先端バイオ工学研究センター

先端膜工学研究センター

未来医工学研究開発センター(医工連携)

数理・データサイエンスセンター

バイオシグナル総合研究センター(農工連携)

サイバーとフィジカルをC³でつなぐシステム情報学の新展開 ～システム情報学研究科～



C³ユニットを核とするネットワーク型教育研究体制を構築し、分野融合研究を加速
(C³: Co-Creation and Collaboration)

分野融合

C³ユニットの例

- ① 数理・自然探求U
- ② 技術・知能・価値探求U
- ③ 技術展開創造U
- ④ 課題起点創造U
- ⑤ データ活用創造U

無人自律飛行機

スマートものづくり

ロボットハンド

リハビリロボット

ロボット視覚・聴覚

ヘルスモニタリング

フィジカル空間

シミュレーション

AI

サイバー空間

健康・生活支援サービス

メッシュネット

自律分散システム

3次元ディスプレイ

触感センサ

スマートアグリ

数学基礎論・応用数学

価値共創

拠点創出



世界トップレベルの研究拠点になりうる
挑戦的な研究の萌芽を育て、強力にバッ
クアップ

データ・計算・システムを基軸として他部局
との連携・協働を強化し、価値共創を積極的
に推進

地球規模の農業発展に資する研究の創出

～農学研究科～



研究目標

自然及び人工生態系の保全を図り、衣食住の基となる生物資源の生産・管理・利用と開発を通じて人間社会に貢献する「持続共生の科学」を理念とし、「食料・環境・健康生命」に関わる諸問題の解決を目指す

研究アプローチ

食料共生システム学

農業工学及び農業経済学の知識と技術を協働し、食料の生産者と消費者が環境保全型持続社会を通して共生するための**生産基盤構築から流通・消費**に至る全プロセスの体系化を図る

資源生命科学

人類生存の根本的課題である食料生産の質と量の向上を図るため、**動植物遺伝資源の探索・開発**と改良を行い、21世紀の食料生産に貢献する

生命機能科学

農業と食料の基本となる生命現象を化学・生物学の両面から解明し、**農産物及び食品の安全性向上と機能開発**を通じて人の健康の維持・増進に貢献する

附属センターとの密接な研究連携

食資源教育研究センター

動植物資源の遺伝的評価に基づき、持続的な育種改良システムの構築を図る

食の安全・安心科学センター

食品安全・食料安全保障に関する様々な課題について総合的に取り組む

地域連携センター

地域との知の連結点となり、農山村地域の問題解決や価値創造に貢献する

研究科の取り組み

研究基盤の構築

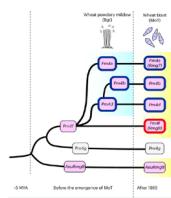
- 競争的資金を獲得するためのFDセミナーの開催
- 採択された科研申請書の研究科内共有
- 研究テーマと企業・学術機関との戦略的連携

国際的な着眼点・競争力を持つ研究成果の発信

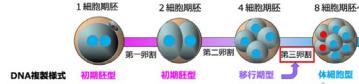
- 国際共同研究成果の発信推進
- 国際的に評価の高い学術誌での発表推進

世界の農業に貢献する進行中の研究例

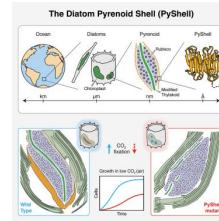
国際的に評価の高いジャーナル（Web of Science）に掲載



コムギいもち病抵抗性遺伝子によるうどんこ病の認識



マウス初期胚の型破りなDNA複製様式



高効率CO₂固定を可能にする珪藻類のタンパク質

異分野共創による海洋政策科学の確立

～海事科学研究科～



海から地球の未来を考える

船舶・港湾物流のゼロエミッション

- ・代替燃料と自律運航船
- ・船底防汚技術
- ・港湾サイトの電化と再生エネルギー利用
- ・Big Dataを活用した運航の最適化
- ・フィジカルインターネット (PI) 対応

海洋再生可能エネルギー

- ・洋上風力
- ・洋上太陽光
- ・潮力・波力
- ・新水素エネルギー
- ・グリーン水素
- ・複合プラットホームの開発と人材育成

気候変動による海洋環境激変 その把握と社会課題解決

- ・異常気象
- ・海面上昇
- ・沿岸域の災害
- ・海洋ゴミ
- ・酸性化
- ・酸素欠乏
- ・栄養バランス

多機能練習船「海神丸」

海洋調査(海洋観測、海底探査)、運航データ活用など、高度な知識や技術を身につけた海洋人材(技術者、研究者)の育成と輩出、優れた研究の発信、海神丸の研究利活用の拡大と推進、社会貢献を目指す

国際共同研究

- 北米 テネシー大、アイオワ大、シャーブルック大
- 欧洲 アイスランド大、ストックホルム大、ブレーメン大、ハノーファー大、ドレスデン工科大、ストラスブル大、ウィーン工科大 など
- オセアニア カンタベリ大
- アフリカ ナミビア大
- アジア 中国科学院、高雄科技大、デリー大、インドネシア UGM、カセサート大、マレーシア UPM など

国内外部機関と共同・受託研究

東京大、東京海洋大、京都大、名古屋大、大阪大、広島大、徳島大、大阪府大、兵庫県立大、JAXA、JAMSTEC、NEDO、AIST、NIMS、NIES、QST、JMETS、海上・港湾・航空技術研究所、日本船舶技術研究協会、日本海事検定協会、笹川平和財団

連携講座

- 海洋環境計測科学講座 (JAMSTEC)
- 量子科学技術研究開発機構 (QST)

学内連携

- 海洋底探査センター
- 内海域環境教育研究センター
- 水素・未来エネルギー技術研究センター

練習船機能の高度化と探査・観測機能の付加による海事海洋分野の先端研究活動の拡大

- (1) 航海・機関に関する実海域運航データおよび様々なセンサーによる海洋情報の収集機能
>海技士養成だけでなく海事海洋人材育成のための研究展開
- (2) 運航データ陸上転送・共有システムによる運航情報のリアルタイム転送機能
>自律運航船技術開発研究の展開
- (3) 船舶位置や方位を自動制御する自動船位保持機能 (DPS)
>厳しい海象での海洋調査(海洋観測、海底探査)、海洋開発等への研究展開
- (4) 海洋調査に関する先端観測機器群による長期や連続調査・海洋底探査機能
>海洋や海底の状況や状態調査、海洋環境、海洋開発に資する研究データの収集と活用
- (5) 災害時の緊急物資供給支援に係る機能
>飲料水・雑用水供給機能、陸上への電力供給機能、支援物資コンテナ輸送スペース

海上安全、海事海洋産業振興、

海洋環境保全、 再生可能エネルギー開発

などに資する研究を展開し、 海事海洋分野へ貢献する

実海域モニタリング

AI

海洋ロボット

液体水素輸送技術

洋上風況解析技術

海洋開発技術

材料開発

海洋調査・探査

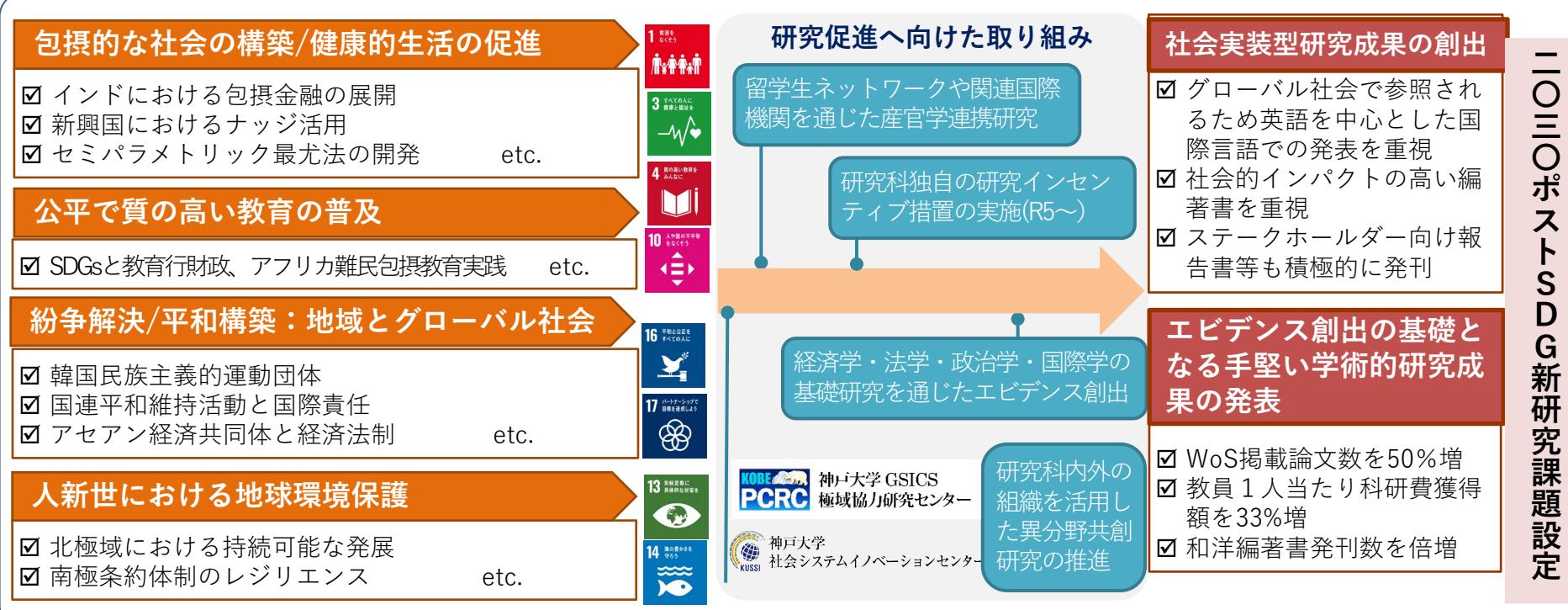
気象海象調査・解析

環境調査・分析

海洋法



地球的課題(SDGs)解決志向の異分野共創研究を通じて、エビデンスに基づく国際協力のあり方を提示し、研究成果を社会実装する。



注目 科研基盤A 「SDGsと教育行財政に関する比較研究」(2022-2025)

審査委員評価より抜粋：「本研究は、教育行財政の視点から教育の質と公平性について包括的な視点を持ち、アフリカ、アジアを対象に同じ研究枠組を応用して国際比較分析を行うことで、SDGs達成への貢献を試みるという実践的な政策研究で、学術的意義がある。教育の質と公平性、SDGsの目標達成への貢献など、期待される成果も大きいといえる。」

注目 挑戦的研究(開拓)「人新世における南極条約体制のレジリエンス」(2021-25)

審査委員評価より抜粋：「地球システムと人類社会システムが一体化する人新世下での法学研究がいかにあるべきかという問題意識の下、モデルケースとして南極条約体制（ATS）を取り上げ検討するもの。100年先の南極の姿を自然科学の力を借りつつ構想しながらATSを検討するスケールの大きさから、研究の挑戦性を高く評価する。国際法学体系への変革への貢献のみならず、法学研究一般のあり方へのインパクトも見込まれる。」

参 考 国際協力研究科 DATA (第3期中期計画終了時の実績)

- 研究活動につき「特質すべき高い質にある」と評価（大学内2研究科のみ）
 - 競争的外部研究資金教員1人当たり受入額が総合文系で全国3位
 - 論文の55.1%、著書の38.5%を外国語で発表
 - 外国語論文の38.0%が査読を経て発表

新たな科学技術や学問領域を生み出すイノベーション・エコシステムの構築 ～科学技術イノベーション研究科～



4つの自然科学系分野（バイオプロダクション、先端膜工学、先端IT、先端医療・製薬学）と社会科学系分野（アントレプレナーシップ）を教育研究の柱とし、これらが互いに融合することにより新たな科学技術や学問領域を生み出すとともに、人材育成・研究開発・事業化が効率よく循環するイノベーション・エコシステムを構築することで、本研究科が科学技術イノベーション創出を牽引する拠点となることを目指す。

バイオプロダクション分野

革新的なバイオテクノロジーやバイオプロセスの創成

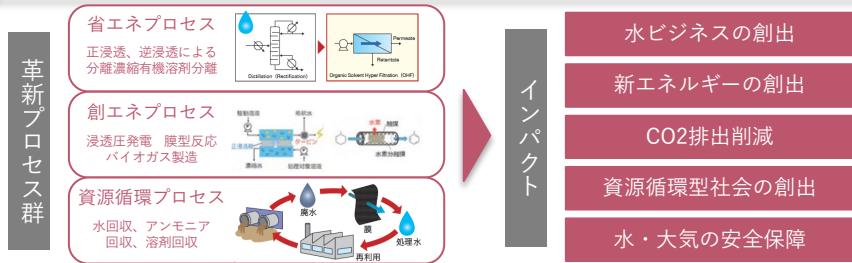


研究の強み・実績

- バイオものづくりに関する最先端研究設備、バイオマス発酵生産の実証プラント、バイオ医薬品のGMP製造プラントを整備しVR化
- 新たなバイオテクノロジー基盤や細胞の育種技術、バイオ×デジタル融合プラットフォーム開発等の最先端研究及び産官学連携による実用化プロセス開発を実施
- 先端バイオ工学推進機構（参画企業約50社）やバイオオロジクス研究・トレーニングセンター（参画企業約30社）との協働により、産学連携や人材育成を強力に推進

先端膜工学分野

革新膜・革新的膜プロセスの創成

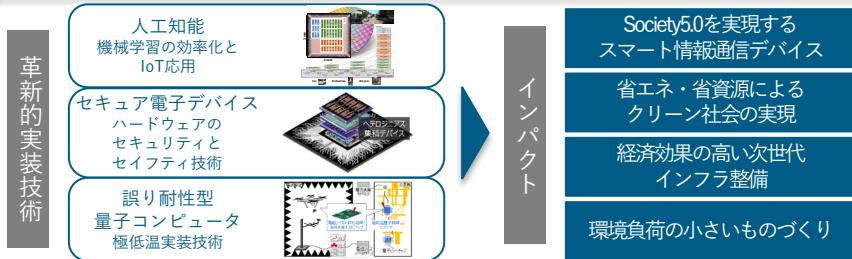


研究の強み・実績

- 先端膜工学研究拠点施設（6000m²）が大学キャンパス内に2015年2月竣工、先端膜工学研究センターを2019年4月に設立（海外14大学・膜センターと研究提携）
- 先端膜工学研究推進機構（参画企業約80社）との協働により、産学連携を強力に推進
- 産官学連携により、膜を用いた省エネ型水処理・ガス分離プロセス、膜利用創エネプロセス、環境循環型浄化プロセス等の開発を実施

先端IT分野

先端IT機器の高性能、省エネ・省資源化及び高信頼・高セキュリティを実現する半導体デバイスとシステム実装技術を開発

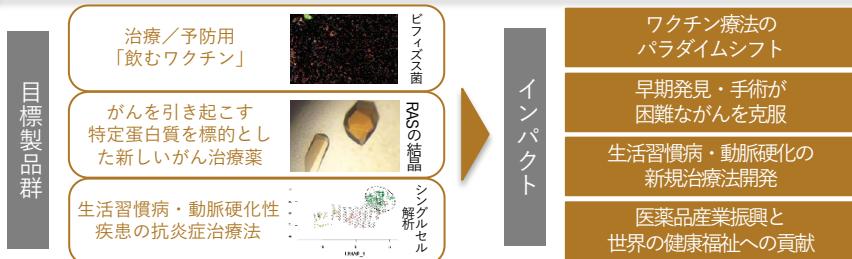


研究の強み・実績

- ハードウェアセキュリティとハードウェアセイフティにかかる学術分野の創出と展開をリード
- 半導体・電子機器のノイズ問題にかかる実務的な研究開発を産学共同・国際連携のもとで多面的に推進
- 超低消費電力IoTセンサーノードやデジタルヘルスケアデバイスの開発で世界を牽引
- 誤り耐性型量子コンピュータの実現に向けた極低温デバイス技術を産業界と連携して開発

先端医療・製薬学分野

「日本発」の革新的技術で新薬創出の停滞を打開し健康長寿を実現



研究の強み・実績

- ビフィズス菌を応用した新規経口ワクチン製造技術を活用した、がんや感染症に対する経口ワクチンの研究開発
- SPRING-8/SACLA/シミュレーションを駆使した創薬基盤技術を確立 分子標的のがん治療薬候補を国内企業と共同開発
- 臨床検体のシングルセル解析を用いたエビデンス創出 臨床研究による各種疾患の腸内細菌叢解析と腸内細菌製剤開発
- 医療産業特区の活用による産学連携と薬事規制対応に最適な環境

経済学と経営学の先端研究で知を創造し、社会課題に挑む

～経済経営研究所～



社会科学系国立大学附置研究所として最長の伝統と国際性・先端性

基本ミッション

- 経済学および経営学の先端研究の推進
- 異分野融合研究の分野開拓と推進
- 貴重資料・データベースの整理・構築・分析



4研究部門

- 1.グローバル経済研究部門
- 2.企業競争力研究部門
- 3.企業情報研究部門
- 4.グローバル金融研究部門



室・センター等の施設

- 1.共同研究推進室
- 2.機械計算室
- 3.研究所図書館
- 4.附属企業資料総合センター
- 5.地域共創研究推進センター



国際共同研究の推進： 研究成果の国際的発信

Emerging Sources Citation
Index 所収の雑誌の刊行

(研究成果をシリーズとして出版)

- The Japanese Accounting Review

研究データベースの整備・特徴ある研究

- 国内最高峰の企業資料と経済系データベースの構築と分析結果の公刊
- ラテンアメリカ研究、地域連携研究他
- 室・センター等の施設

自治体・産業界・国内外の大学との連携

- 共同フォーラム、シンポジウム、セミナー等の開催
- 高度人材の育成に資する教材開発

2030年ビジョン：「学理と実際の調和」の深化

先端研究で優れた知と
イノベーションの創出

➤ 日本を代表する経済学・経営学の
研究拠点としての地位を維持

産業界や社会の課題解
決に挑む応用科学研究

➤ 地域社会や企業、団体、他大学等と共創
したDXやSDGSなど応用科学研究の推進

